

『長期Open abdomen managementに対する定型的な管理方法の検討』 に対するご協力のお願い

研究の目的と意義	重症の腹部外傷や急性腹症の症例において、初回手術で閉腹が困難な場合が散見される。そのような症例において長期（8日以上）に閉腹が困難な場合は、一般的に合併症が増加し予後が悪化するとされている。当院では、欧米で一般的に行われている手法と同様に積極的に腹壁を寄せて閉腹する手法（Wittmann patchなど）を日常診療として用いており、少しでも閉腹を早く行えるように努めている。本研究の目的は、当院における長期Open abdomen managementの予後ならびに合併症を調査し、今後の医療に役立てることである。
研究の方法	対象症例を電子カルテから抽出し、後方視的に死亡率、合併症、合併症率を検討する。
対象者	西暦2007年4月1日～2021年3月31日の間に、当院で Open abdomen management（OAM）を8日以上行った方
利用する試料/情報	年齢、性別、OAMとなった日、手術病名、術式、一時的閉腹の方法、OAMの期間、初回OAMから筋膜閉鎖までの手術回数、入院期間、転帰、筋膜閉鎖率、合併症、身長、体重、既往症、現病歴、OAMの適応、輸液量、輸血量、白血球数、Hb値、血小板数、総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、AST、ALT、BUN、クレアチニン、LDH、乳酸値、HbA1c、空腹時血糖、細菌検査結果、使用抗菌薬
利用する試料/情報の取得方法	診療録より取得する。
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	「当院単独研究」
試料/情報の院外提供	「該当なし」
結果公表	第59回腹部救急医学会で発表予定
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2023年3月9日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 救急科/センター長/清水 正幸
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 救急科/清水 正幸